



私立中学
1年生の

スタート学習

昭和学院の基礎学力の確立

学力の礎 ① 学習計画ノート

先生との交換日記としても活用
学習から生活のことまで網羅する
新入生とのコミュニケーションツール

ほめて励まし、習慣化する
小学生から中学生へ。学習の量も質も大きく変わるこの時期は、学習習慣をいかに身につけることができるかが、大きな課題です。

同校では中1生の1日が、手作りの『学習計画ノート』に集約されます。ノートの扉を開くと1日1ページの構成で、家庭学習の内容、勉強時間、宿題、持ち物や連絡事項などを書き込むスペースが設定されています。

「中1の初めのうちは、家庭学習の目標時間は1日1時間です。目標が達成できていない生徒には学習を促し、1時間以上取り組んでいる生徒はほめて励ますようにしています。」

最初の頃は1時間ですが、だんだんと宿題や課題も増えるので、宿題だけ



「学習計画ノート」には、HRの時間に係が発表する「連絡事項、持ち物、提出物」もしっかりメモ。人の話をきちんと聞く訓練です。

で1時間、プラスアルファで自主的な学習という形になると思います。
メモ欄には、その日の授業でわからなかったことはもちろんですが、普段心の中で思っていて、なかなか教師に話せないこと、あるいは相談したいことなどを自由に書くことができます。
入学したばかりの時期は、どのクラブに入るうか迷っていると書いてくる生徒などもありました。このノートは教師にとつて、生徒の気持ちを汲み取る有効なツールでもあります」

(中1学年主任 西谷史子先生)
学習計画ノートは毎日、担任の先生に提出し、先生がコメントを書いて返却します。慣れない新生活で生まれる数々の疑問、悩み、発見などを、先生と楽しく共有するうちに、学習習慣も身につく大切なノートです。

読書習慣は最初が肝心

2010年に新校舎が誕生し、図書館設備が整った素晴らしいメディアセンターも誕生しました。「調べ、読み、考え、発見し、新しい情報を創りだして伝えていく力を育てる」という同校の教育目標の要となる施設です。

学力の礎 ② 読書ファイル

好きな本を、好きな時間に、好きなだけ
恵まれた環境で読書の楽しさを知り
学習の基本、読み解く力を身につける

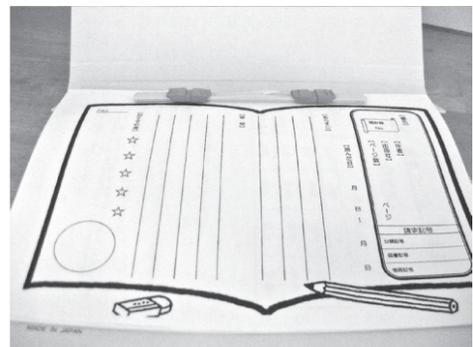
読書習慣を身につけるために、中1年生が取り組んでいるのが『読書ファイル』です。自分の読んだ本についてのデータと内容、そして感想を綴った覚書シートをファイルに綴り、定期的に先生方がチェックします。

「最初は国語科の教員がチェックし、担任や副担任にも回覧します。中1の最初は学活の時間に読書ファイルの書き方や活用の仕方を指導しました。」

また学期の最初には、20分間の「朝読書」をする期間を設けています。これは、すべての教科に必要な、文章を読み解く力をつけるには、



図書館が編集する『読書の旅、羅針盤』など冊子のほか、図書館内にも新学期には「おすすめ図書」が紹介されます。



読書ファイルは自分の読書記録です。中1の自分がどのようなことを考えていたのか、あとで振り返ることもできます。

最初が肝心だからです。近年、子どもの本離れが言われているので、まず読書の楽しさを知らなければ、年間1冊も本を読まない生徒がいるかもしれません。そこで図書館の使い方指導を行ったところ、自分の読書ファイルを図書館に持ち込んで、楽しんで本選びをする中1生が多くなったようです」

読書指導のテーマは「好きな本を、好きな時間に、好きなだけ」。早速、朝読書を体験した新1年生は、春の健康診断の空き時間にも、積極的に読書をするくらい、夢中になっているそうです。

「中1は月、木曜日が英語、火曜日が理科と社会を隔週で、水曜日国語、金曜日は数学、土曜日は読書というように、各教科まんべんなく朝自習を行っています。」

中1の1学期の中間考査は、小学校の頃とは違い、範囲が広く、内容も深いので、毎日の積み重ねが大事だということを指導する必要があります。

私は数学科ですが、中学の数学は特に内容が飛躍的に深く、難しくなります。そこで最初は理解するまで、一人ひとりでいねいに指導します」



明るく広々とした図書館内の吹き抜けスペース。思い思いに読書を楽しむことができます。